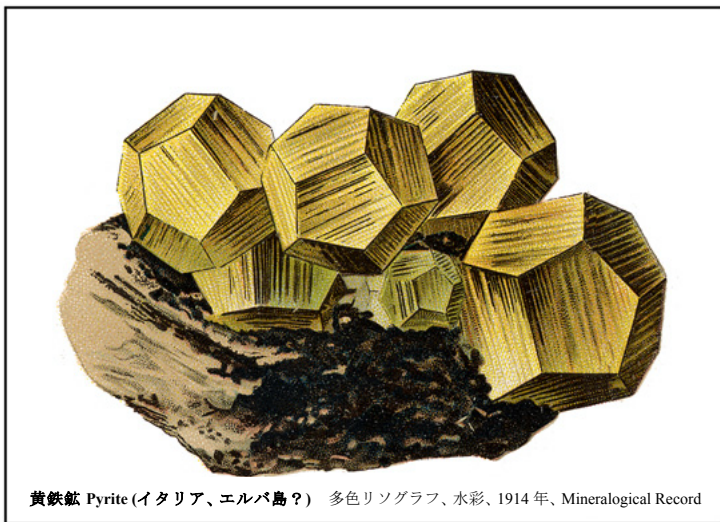


ようこそ不思議な石の世界へ 15 – 鉱物の立体模型をつくろう その2 –

きしわだ自然資料館

1. 鉱物の形 – 石のことが好きな君たちへ –



黄鉄鉱 Pyrite (イタリア、エルバ島?) 多色リソグラフ、水彩、1914年、Mineralogical Record

左の絵は、いまから100年前にリソグラフ

という方法で描かれた「黄鉄鉱」です。

とてもいいに描かれているので、鉱物を

見分けるとき、いちばん大きな手がかりにな

る「形」がよくわかりますね。

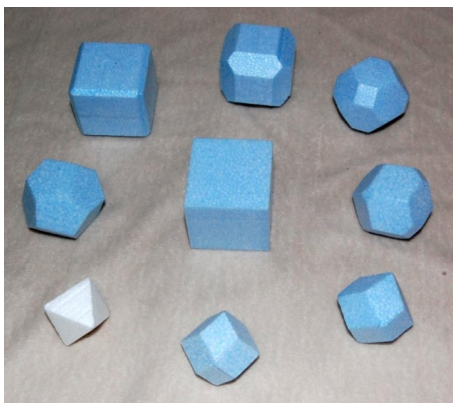
この黄鉄鉱の形は五角十二面体とよばれて

います。いろいろな標本をよくみてみまし

よう。ゆがんだところを直し、欠けたところを付け足して、その鉱物の本当の形（これを理想形とい

ます）を思い浮かべてください。どの鉱物も「平らな面でかこまれた規則正しい形」をしています。

2. 模型をつくってみよう



サイコロの形（立方体）の発泡スチロールをつかって、鉱物の

模型をつくってみましょう。材料は、100円ショップでいろんな

大きさのものが手に入ります。立方体の辺や角を、鉱物のルール

（対称性という）にしたがって規則正しく切っていくと、うつく

しい形があらわれてきます。

3. 注意すること

発泡スチロールをきれいに切るにはニクロム線をつかった熱線カッター（スチロールカッター）をつ

かいます。模型をつくるときには、ケガやヤケドをしないように、かならず手袋をしましょう。

4. 参考にした本

- ①『もっと！鉱物を楽しみたい7』、露猫綾乃、つゆねこ企画、2008年
- ②『鉱物結晶図鑑』、野呂輝雄・松原聡、東海大学出版会、2013年